

16期 蓮見（琴坂）元子

今回(2021年1月29日)CEWの講師として、「心理学を学んで一赤ちゃんから高齢者までの発達心理学研究とともに歩んだ道のり」というテーマで講演させていただきました。心理学の教員を36年間勤め、2年前に定年退職し、1年間非常勤講師をした後、現在は、現役時代にまとめきれなかった科研費研究などを紀要論文として執筆したり、学会で研究発表をしたりしています。

みなさんの先輩として大学の先生(研究者)になるにはどのような勉強や研修をしなくてはならないのか、心理学とはどのような学問なのか、大学の教員になってから、実際どんな仕事をしてきたのか、学生の教育や心理学の研究などについて、パワーポイントを使って、分かりやすく講演し、心理学に限らず、大学の先生(研究者)を目指す後輩が現れてくれることを期待しています。

今回はコロナ禍なので、母校で、対面での講演を行わず、自宅よりZOOMを使って、講演させていただきました。したがって、今回、母校をおたずねする機会はなかったのですが、一昨年、同期生と一緒に「石神井公園・大泉学園散歩」をしたときに、校庭だけでしたが、本校に立ち寄りました。在学当時とはすっかり変わっていました。

1)「まず、なぜ、心理学を専攻したのか？」

実は中学生の時に偶然、手にした梅棹忠夫の「知的生産の技術」に惹かれ、将来は、世界の果てに行くような文化人類学の研究者になろうと思いました。しかし、学部、大学院とも、人間の行動を研究する心理学に進学しましたので、心理学の研究者になりました。大学時代は山岳部・探検部でした。



(下北半島脇野沢部落で)

2)「心理学はどのような学問なのか」

心理学は、行動科学で、まず、仮説を立て、仮説を検証するために、研究方法を選択し、出てきたデータをもとに分析し、統計的検討を行い、新しい知見を明らかにしていくという学問です。研究方法も様々あり、興味の赴くままに研究できるという幅広さと自由度の高い学問であるといえます。それを生徒さんにわかっていただけたらと思っていました。感想文を読ませていただくと、講演を聞いて心理学に興味を持ったという生徒さんが多くいらして、講演してよかったなあと思いました。

3)「大学卒業後なぜ大学院に進学したのか」

大学で心理学を専攻するうちに、行動科学として面白さにはまりました。それは、心理学が、実験や観察、調査などを行って、データを収集し、それらを分析し、統計的検討を行い、結論を出していくという行動科学だったからです。卒業後の就職は公務員の心理職を考えていたのですが、大学院にも合格したので、大学院に進学しました。大学院の試験は専門科目や英語だけでなく、第2外国語(ドイツ語)もありました。

修士課程のときには、教育相談室に所属してカウンセリングを学びました。修士論文は、「言語連想法による意味の研究」で、同じ言葉を使っても、意味が小学生、大学生、工場労働者で、どのように違うのだろうか、というのを実証的に研究しました。当時は、パソコンや便利なソフトはなかったので、自分でプログラムを書いて、大学の大型コンピュータ室を往復し、データを処理しました。孤独な作業で、直接、人に関わる心理学がしたいと思いました。

4)「病院での臨床心理の仕事からなぜ大学の先生になったのか」

博士課程に進んで、保健所の3歳児健診のアルバイトや慶応義塾大学病院の言語治療室での研修をしました、子どもの言語発達研究と心理臨床を中心に行いました。

博士課程が終わる年に研究職ではないのですが、就職できました。国立小児病院言語治療室(のちに発達心理室)で、発達障害や情緒障害の子どもとそのお母さんと関わり、毎日夢中で過ごしました。面接や発達検査したり、課題学習、発達支援をしました。

その後、夫の親戚筋からの縁故で、群馬にある短大の先生になりました。しかし、臨床の仕事も続けたかったので、国立小児病院との掛け持ちで働きました。タクシーをとばして、保育園にお迎えに行ったこともあります。短大は1,2年で辞めるつもりでしたが、大学の先生はなかなか面白くて、また、長い夏休みもあり、定年までいるつもりになりました。結局、24年間務めました。

その後、友人の紹介(縁故)で別の大学(川村学園女子大学)に移りました。臨床心理士を目指す大学院の学生さんの指導をしたり、科研費に応募し、研究が何回か採

用されたので、海外に調査研究に行ったり、学会で報告したりしました。13年間勤めて69歳で定年となり、その後、1年間非常勤講師を務めました。

私の研究のテーマは主に乳幼児から高齢者までの生涯発達心理学で、保育園や小学校の放課後教室における子どもの行動の観察研究から、WEBを使った高齢者や保育者の調査研究まで、様々な研究をしました。

5)「中学校ではどのように過ごしたらよいのか」

また大学院に進学して大学の教員になるためには、「専門科目」だけでなく、「語学」、「数学」(統計学、図表の読み方まとめ方、論理的思考)、その他、今、皆さんが中学校で学んでいる勉強がすべて重要であることをお話ししました。そして、最近では、大学の教員になるには公募という方法が一般的になりましたが、私の時代は縁故が中心で、友達や親戚が声をかけてくれ、就職が決まったりしました。友だちを作ること、友だちを大切にすることが、案外就職の際は大事だったりします。

まず、学校の勉強を頑張りましょう。どの科目も大事です。(心理学⇒英語(入試、論文を読む)、数学(統計学)、など)

友だちをつくりましょう。生涯の友人として、付き合うことができ、人生を豊かにします。

16期生は毎年1回の同期会だけでなく、山歩き会、京都奈良会などつくって、一緒に山に登ったり、旅行をしたりしています。私はエッセイの会にも参加しています。



6)「皆さんの感想文を読んでのコメント」

心理学は、心を扱う学問ですが、「心は見えないから、見える形で取り出す」と説明しました。すなわち、心を「行動」という見える形に取り出して研究するのです。その説

明が心に残っているという生徒さんが大勢いました。中学生の皆さんに学校の教科ではない心理学がどういう学問か、伝わるかしら、と心配でしたが、皆さんの感想文から、ちゃんと聞いてくれて、理解してくれたと思いました。感想文は中学生とは思えないレベルの高いもので、感心しました。対面ではなかったのですが、皆さんのようすは直接見えなかったのですが、ZOOMを通して皆さんが熱心に聞いてくれたり、クイズに答えてくれていたのがわかりました。ご清聴ありがとうございました。